

国立大学法人
浜松医科大学
概要 2016

National University Corporation
Hamamatsu University
School of Medicine



CONTENTS

- 1 建学の理念等
- 2 学長あいさつ
- 3 第3期 中期目標・中期計画
- 5 教育目標
- 6 沿革
- 9 組織
- 10 歴代学長・役員等
- 14 職員、学生等
- 20 国際交流
- 21 学内共同教育研究施設
- 24 附属図書館
- 25 地域・社会貢献
- 27 医学部附属病院
- 33 外部資金受入れ状況
- 34 財務、土地及び建物
- 35 配置図
- 36 案内図

建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

学章・シンボルマーク



学章

静岡県、日本の象徴である富士山をモチーフにデザインされた学章は、開学以来、親しまれ、使用されています。
富士に医大、下部に大学の犬、湾曲部は遠州灘と波、突起部は浜名湖をイメージしています。



シンボルマーク

本学のローマ字での頭文字「h」をデザイン化。
水色部分が遠州灘(下部分の曲線)、浜名湖の水面、浜松から望む富士山(右上の突起)で浜松の特色、全体の曲線が生命の源である自然な水のゆらぎ、医療の重要キーワード「生命」を表現しています。
また、オレンジ色の丸と水色部分の両方を合わせて全体を見ると、元気、健康、躍動を表現した人(丸を頭、水色の両端を手に見立てる)に見えます。
人類の健康と福祉に貢献することをイメージしています。

平成28年度学事予定

4月5日	入学式
5月13～14日	滋賀医科大学との交流会
6月7日	開学記念日
7月下旬～8月	夏季休業
10月1日	大学院医学系研究科(博士課程)入学式
10月27日	解剖体慰霊祭
11月5日～11月6日	医大祭
12月下旬～1月上旬	冬季休業
1月14～15日	大学入試センター試験
2月25～26日	前期日程入学試験
3月12日	後期日程入学試験
3月13日	学位記授与式

ごあいさつ

国立大学法人浜松医科大学7代学長を拝命した今野弘之です。宜しくお願いします。国立大学法人としては寺尾俊彦学長、中村達学長に続いて3代目となります。法人化以降12年間の本学の運営を概観すると、本学は他の国立医科大学で見られた大学同士の合併には与せず、医科大学として存続する道を選択し、健全な財政を堅持しながら、光医学を中心とした研究に集中的に資源を投入することで、本学の独自性を担保し、地域企業を中心に産学連携を展開してきました。さらに、高い国家試験合格率を維持しながら、県内出身者を増加させ、地域の医療に貢献する優れた医師を養成してきました。これまでの実績を基に本学をさらに発展・深化させたいものと思っておりますが、入試改革を含めた教育のInstitutional Research、医学研究者の減少対策、運営費交付金の継続的な削減による財政的基盤の見直しなど、取り組むべき課題が山積していることも事実です。前執行部から、「第3期は本当に大変だ」と幾度となく申し渡されました。前途多難で、しかも第3期中期目標が「持続的な"競争力"を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学へ」と、既に国によって定められている中で、本学独自の目標として掲げた、地域特性でもある「健康福祉社会の実現」を成就するためには、限られた「自由度・裁量」を最大化し、PDCAサイクルを行いながら有効な施策を着実に実施する必要があります。本学が一体となり、将来構想を共有することが必要であると共に、皆様のご指導、ご支援が不可欠であることは論を俟ちません。

入学者選抜試験から学業成績、共用試験、国家試験、さらに卒後のキャリアパスまで全体を検証し、カリキュラムの評価・改善に生かすために新たなシステムを導入します。ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、そして新たなガイドラインに基づいたアドミッションポリシーを三位一体として運用し、全国から優秀な学生を集め、研究マインドを持ち、高度な知識と技術を身に付けた人間的にも優しく、豊かな教養を持つ医療人の養成を目指します。さらに、学生、若手医療人の国際感覚の涵養や、文化の多様性の理解を深めたいと考えています。「光先端医学教育研究センター」が中心となって本学の強みである光医学を応用した産学官連携の研究を進展します。一方で、常に新たな研究シーズを発掘する体制を整えます。諸機関と密接に連携しながら地域医療体制の中核的存在として高度な医療を安全に提供し、「卒後教育センター」による研修医・専攻医の支援の一体化、専門・認定看護師取得支援等により、有能で人間性豊かな医療人を育成し、地域医療に貢献したいものと思っております。

前職である病院長として実感したことは、本学職員は真摯に職責を果たし、高いpotentialを有しているということです。本学の最大の財産といえます。協調と調和を基調とした、透明性と公平性のある運営を行いますので、皆様のご理解とご支援をお願い致します。



国立大学法人
浜松医科大学長
今野 弘之
KONNO Hiroyuki

第3期(平成28~33年度)中期目標・中期計画

大学の基本的な目標

建学の理念を踏まえ、特に以下の事項について重点的に取り組む

1. 医学及び看護学の進歩に対応する能動的学習能力、問題探求・問題解決能力、そして、幅広い教養に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、国際性を育み、地域社会に貢献できる医師・看護専門職を養成するとともに世界に発信できる研究者の育成を目指す。また、本学の特色でもある光技術等を用いた先進的な医学研究環境のもとで、次世代を担う人材育成として「光医学研究のリーダー」、「光医学の素養を持った医療人」を養成する。
2. 光技術と他の様々な先進的技術の融合による新しい医療技術の開発推進に取り組む。特に新規光技術の医学への活用(メディカルフォトニクス)と光、電磁波等の多面的な原理を介した生体内の分子や情報の画像化に関して先端的で特色のある研究を推進する。
3. 地域医療の中核病院として高度で安心・安全な医療を提供するとともに、病病・病診連携を促進し、地域社会のニーズと個々の病院機能に応じた医療ネットワークの構築を目指すことにより、地域医療の充実に貢献する。また、光医学やイメージング等を活用した先駆的な医療を世界に発信するために、臨床教育の充実にを図り、研究マインドを有する専門医の育成を推進する。
4. 産学官連携によるものづくりの実績を活かし、光技術等を活用した特色ある研究を基盤とした実用化開発を推進するとともに、それらの活動を行う人材を育成し、社会に還元してイノベーションの源泉となることを目指す。

(目標数34、計画数48)

<p>【教育】(目標8、計画10)</p> <p>教育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 光医学の素養を持つ医療人の輩出、光医学研究のリーダー養成(博士課程) ● 「プロフェッショナリズム教育」に関する授業の充実 ● カリキュラムマップの策定、科目ナンバリングの完了 ● 学修成果の可視化 <ul style="list-style-type: none"> ① 成績評価基準の見直し ② GPC活用体制構築及び運用 ③ シラバス作成ガイドラインの策定及び運用 ● 地域保健医療(特に在宅看護)に関する教育内容の充実 <p>教育の実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教学マネジメント体制の再編 ● FDの実施(80%以上の参加) ● アクティブラーニング・主体的学修推進のための施設・設備の充実 <p>学生への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生のニーズを適切に反映させた支援を実現するための取組開始 <p>入学者選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アドミッション・ポリシーの見直し、個別選抜方法の導入 	<p>【社会貢献】(目標3、計画5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 産学官金連携への意識向上 ● 医工連携ワンストップ窓口の機能強化 ● 公開講座実施体制の見直し ● 「子どものこころと脳発達学」の新たな研究領域開拓 ● 情報及び文献提供の継続による地域医療の向上支援 	<p>【財務内容の改善】(目標4、計画4)</p> <p>自己収入</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療収入増加に向けた病院施設基準取得の検討 ● 産学官共同研究マネジメント及びコーディネーター機能の強化による外部資金獲得額の維持 <p>経費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 管理的経費の分析結果に応じた予算配分の実施 <p>資産の運用管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資金の効果的運用、職員宿舎再整備計画の策定
<p>【研究】(目標5、計画6)</p> <p>研究水準・成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 光技術などを活用した非侵襲イメージング装置の開発 ● 光医学・医療のリーダーとなる研究者、技術者の養成 ● ナノスーツ法、こころの発達研究の新たな展開 <p>研究実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 光先端医学教育研究センター機能の横断的な活用、技術職員の新たな職位を設置 ● 学長主導による研究費支援の継続 ● 技術移転機能の強化 	<p>【グローバル化】(目標1、計画2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外医療機関等での臨床実習促進 ● 研究成果の海外への発信及び海外組織との交流推進 	<p>【点検・評価等】(目標2、計画3)</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 評価内容の見直し ● モニタリング体制の強化 <p>情報公開・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会に理解、応援してもらえる広報
	<p>【附属病院】(目標3、計画6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域医療機関との連携体制強化 ● 安心・安全で低侵襲の医療の提供を実践 ● 安全管理体制の強化 ● 高度で先進的な医療を担う専門医の育成 ● メディカルスタッフの研修・教育を実施・支援 ● 臨床研究の支援・管理機能の強化 	<p>【その他】(目標4、計画5)</p> <p>施設設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キャンパスの教育研究環境の向上 <p>安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 危機管理マニュアルの検証、事業継続計画の見直し <p>法令遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 適正な管理運営の維持 ● 研究の公平性の維持 ● 情報並びに情報機器の適切な取扱を周知
	<p>【業務運営の改善及び効率化】(目標4、計画7)</p> <p>組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企画室の機能、役割の見直し ● 戦略的経費の確保、基金の創設と、その管理体制の構築 ● インセンティブの付与を前提とした業績評価体制構築及びクロス・アポイントメント制度の適用開始、承継職員の年俸制導入率13%以上 ● 男女共同参画の推進 <p>教育研究組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 光先端医学教育研究センター及び医学教育推進センター組織の検証 ● 総合診療医養成モデルの構築 <p>事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 業務手順書の作成、企画力・プレゼン力等の研修の実施 	

平成28年度 主な年度計画

教育

医学概論の授業にグループディスカッション、ポートフォリオ学習を導入し、チーム医療に根差した教育を実現する。さらに、医学概論にプロフェッショナルリズム教育におけるSEA(Significant Event Analysis*)の導入計画を策定する。

※事例や症例について当事者が感じた点を掘り下げ、言語化し、今後の改善点として提言する取組



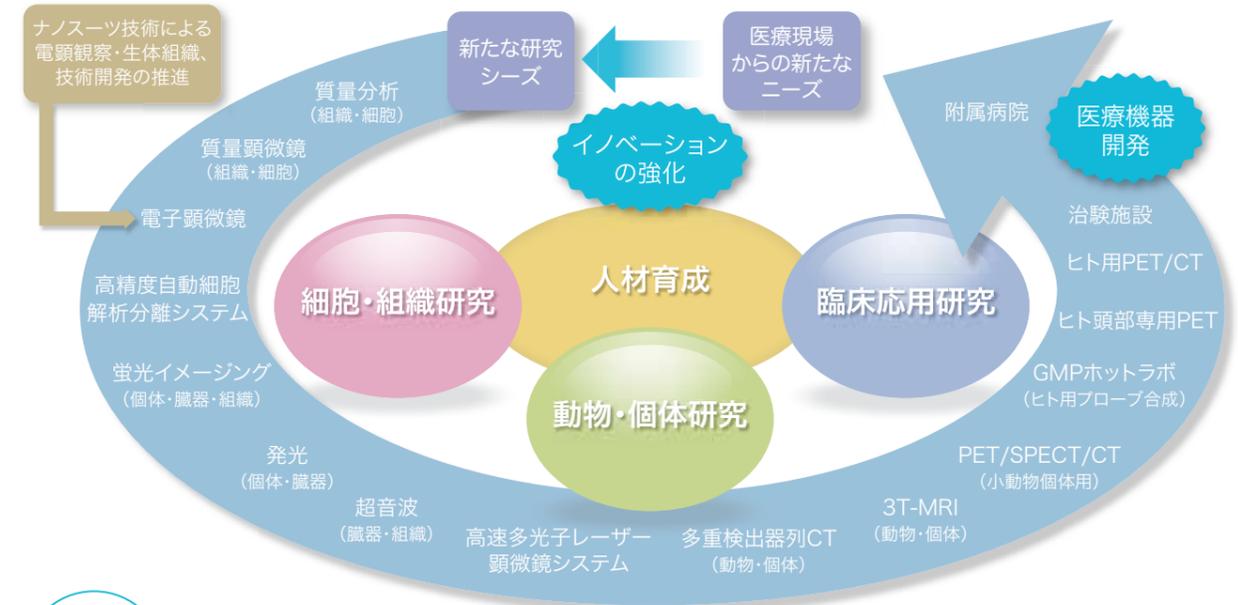
Student Doctor称号付与式(平成28年4月)

研究

光技術をはじめとする多様な技術を活用し、新規イメージング法の創出と実用化に向けた研究開発を推進する。

浜松医科大学の機能強化 — イメージングコンプレックス体制のさらなる活用

イメージングコンプレックスとは、イメージング教育研究機器集合体をいう。本学は、多様なイメージング機器を設置・開発し、それらを活用できる人材とノウハウを有しており、基礎から臨床までの幅広い医学研究と医療及び人材育成に活用している。図には代表的な機器を列挙している。



診療

高度先進医療・低侵襲医療を継続的に推進するために、必要な医療機器等の整備計画について検討する。病院情報システム更新に向け、利便性の高いシステム導入を計画する。ハイブリッド手術室の稼働を開始し、高度な医療を提供する。



教育目標

医学部医学科

自学自習の態度・研究心の育成、人間性・倫理性の養成、国際性の習得およびプロフェッショナリズム(コミュニケーション能力、倫理観等)を身につけた人材の育成を目指しています。

医学部看護学科

生命の尊厳を尊重する倫理観と豊かな人間性、科学的知識に裏付けられた看護実践能力をもつ看護専門職の育成を目指しています。

大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)

1. 研究者としての倫理と誠実な人間性を養う。
2. 国際的な視野を持ち、豊かな知性と教養を身につける。
3. 問題発見能力を身につける。
4. 医学・医療に関する高度の専門的知識と技術に基づく問題解決能力を身につける。
5. 学術論文の作成能力を身につける。
6. 生涯にわたり自立して学問を探究する姿勢を養う。

大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)

1. 特定の専門分野での看護実践の場における研究活動を通じて、高度な専門的知識と技術の向上・開発を図る能力を修得する。
2. 看護学教育と実践活動の場において、専門性の高い教育的機能を果たす能力を修得する。
3. 看護実践を通じて、専門性と倫理観に基づくケアの提供と研究を行える能力を修得する。
4. 看護の専門領域に関わる新しい課題にチャレンジできる高度な能力を修得する。
5. 文化的、社会的背景を考慮して健康問題を捉え、国内外で活躍できる高度な能力を修得する。



沿革

昭和48年	9月10日	静岡大学国立医科大学創設準備室設置
昭和49年	6月7日	浜松医科大学設置 医学部医学科、附属図書館及び事務局設置 医学部に8講座(解剖学第一、生理学第一、生化学第一、病理学第一、微生物学、内科学第一、外科学第一、放射線医学)、9学科目(倫理学、心理学、法学、数学、物理学、化学、生物学、英語、ドイツ語)開設
	7月4日	医学部医学科第1回入学式
昭和50年	3月29日	講義実習棟竣工
	4月1日	附属病院創設準備室設置 医学部に7講座(解剖学第二、生理学第二、病理学第二、薬理学、内科学第二、産婦人科学、小児科学)開設
昭和51年	3月25日	福利施設棟竣工
	3月27日	体育館竣工
	5月10日	医学部に7講座(衛生学、公衆衛生学、寄生虫学、法医学、外科学第二、整形外科、眼科学)開設
	12月11日	第1回解剖体慰霊祭
昭和52年	3月25日	基礎臨床研究棟竣工
	3月30日	RI動物実験施設、管理棟及び臨床講義棟竣工
	4月18日	医学部附属病院設置 医学部に6講座(内科学第三、精神神経医学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科学、麻酔学)開設 医学部附属病院に15診療科(第一内科、第二内科、精神科神経科、小児科、第一外科、第二外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産科婦人科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科)設置 医学部附属病院中央診療施設等(検査部、放射線部、手術部、材料部)設置 薬剤部・看護部設置
	11月28日	医学部附属病院の一部が竣工し、外来診療を開始
	12月20日	医学部附属病院竣工
昭和53年	3月30日	廃棄物廃水処理施設竣工
	4月1日	医学部に2講座(生化学第二、脳神経外科学)開設 医学部附属病院に2診療科(第三内科、脳神経外科)設置 廃棄物廃水処理センター設置
	5月25日	慰霊塔除幕式
	11月15日	附属図書館竣工
昭和54年	3月30日	プール及び福利厚生施設 職員会館(半田山会館)竣工
	4月1日	医学部附属動物実験施設設置
	12月8日	武道館竣工
昭和55年	3月26日	医学部医学科第1回卒業式
	4月1日	大学院医学研究科博士課程(形態系専攻、生理系専攻、生化学系専攻、生態系専攻)設置
	4月26日	大学院医学研究科博士課程第1回入学式
昭和56年	4月1日	医学部附属実験実習機器センター設置

昭和59年	2月18日	開学10周年記念式典
	3月26日	大学院医学研究科博士課程 第1回学位記授与式
	4月1日	医学部に講座(歯科口腔外科学)開設
昭和60年	5月17日	保健管理センター設置
昭和62年	12月5日	医学部附属病院開院10周年記念式典
昭和63年	5月25日	医学部附属病院中央診療施設等(病理部)設置
	10月20日	基礎・臨床研究棟別館竣工
平成元年	6月28日	医学部に講座(臨床検査医学)開設
	10月1日	医学部にメディカルホスピタリティ講座(寄附講座)開設
平成2年	3月20日	MRI-CT装置棟竣工
	6月8日	医学部に学科目(日本語・日本事情)開設 麻酔学講座を麻酔・蘇生学講座に名称変更 医学部附属病院麻酔科を麻酔科蘇生科に名称変更
平成3年	4月12日	量子医学研究センター設置 医学部附属病院中央診療施設等(救急部)設置
平成5年	4月1日	医学部附属病院中央診療施設等(集中治療部)設置
	6月17日	廃棄物廃水処理センターを医療廃棄物処理センターに名称変更
	10月1日	医学部に臨床薬理学講座(寄附講座)開設
平成6年	5月20日	医学部附属病院中央診療施設等(輸血部)設置
	6月7日	開学20周年記念式典
平成7年	4月1日	医学部看護学科設置 医学部に学科目(生命科学)開設
	4月25日	医学部看護学科第1回入学式
	6月7日	医学部看護学科設置記念式典
	9月27日	情報処理センター設置
平成8年	3月25日	国際交流会館竣工
	4月1日	医学部看護学科に3講座(基礎看護学、臨床看護学、地域看護学)開設 医学部に学科目(情報科学)開設 医学部附属病院中央診療施設等(医療情報部)設置
平成9年	4月1日	医学部附属病院中央診療施設等(光学医療診療部)設置
	7月28日	看護学科棟の一部が竣工
	11月27日	医学部附属病院開院20周年記念式典
平成10年	2月16日	看護学科棟竣工
	3月30日	弓道場竣工
	4月1日	医学部医学科に講座(臨床薬理学)開設 医学部附属病院中央診療施設等(血液浄化療法部)設置 医学部附属病院に2診療科(循環器科、心臓血管外科)設置
平成11年	3月26日	医学部看護学科第1回学位記授与式
	4月1日	大学院医学研究科を大学院医学系研究科に名称変更し、修士課程(看護学専攻)設置

平成11年	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等(リハビリテーション部)設置	
	4月26日	大学院医学系研究科修士課程第1回入学式	
	12月24日	光量子医学研究センター竣工	
平成12年	4月 1日	事務局教務部に入学主幹、総務部に情報企画室設置	
平成13年	3月27日	大学院医学系研究科修士課程第1回学位記授与式	
	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等(治験管理センター)設置 光量子医学研究センター改組	
	12月18日	探索的臨床研究施設竣工	
平成14年	4月 1日	医学部医学科に講座(救急医学)開設 医学部附属病院中央診療施設等(周産母子センター)設置	
	9月 1日	医学部附属病院中央診療施設等(遺伝子診療部)設置	
	10月 1日	医学部医学科第2年次後期編入学第1回入学式	
	11月 1日	医学部附属病院に診療科(リハビリテーション科)設置	
平成15年	3月 1日	医学部附属病院新生児特定集中治療室(NICU)開設	
	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等(医療福祉支援センター)設置	
	9月 3日	21世紀COEプログラムに「メディカルフォトニクス」が採択	
平成16年	4月 1日	国立大学法人浜松医科大学設立 大学院医学系研究科博士課程の専攻を、光先端医学、高次機能医学、病態医学、予防・防御医学に変更 医学部附属病院中央診療施設の医療福祉支援センター及び治験管理センターを医学部附属病院の医療福祉支援センター及び臨床研究管理センターに改組 医学部附属病院に臨床研修センター及び医療安全管理室設置 事務局総務部庶務課を総務課と人事課に改組、業務部の医事課を医療サービス課に改め病院管理室を設置、教務部を学務部に改め入学主幹を廃し入試課を設置	
	11月13日	開学30周年記念式典	
	平成17年	4月 1日	医学部一般教育等の12学科目(倫理学、心理学、歴史学、社会学、数学、物理学、化学、生物学、英語、日本語・日本事情、生命科学、情報科学)を総合人間科学講座に改組 医学部医学科の解剖学第一講座及び解剖学第二講座を解剖学講座に改組 医学部医学科の衛生学講座及び公衆衛生学講座を健康社会医学講座に改組 医学部附属病院中央診療施設(栄養部)設置 事務局業務部を病院部に改め、施設課を総務部に編入
		5月25日	医学部附属病院中央診療施設(化学療法部)設置 医学部附属病院に外来化学療法センター設置

平成17年	7月 1日	医学部附属病院新生児強化治療室(GCU)開設
平成18年	4月 1日	医学部医学科の微生物学講座及び寄生虫学講座を感染症学講座に改組 子どものこころの発達研究センター設置 医学部附属病院に診療科(心療内科)設置 医学部附属病院中央診療施設(外来診療部)設置
	7月 1日	監査室設置 事務局総務部総務課に研究協力室設置
	10月 1日	医学部附属病院に診療科(臨床薬理内科)設置 医学部附属病院に腫瘍センター設置
平成19年	1月 1日	分子イメージング先端研究センター設置 事務局病院部に病院再整備推進事務局設置
	1月23日	医学部附属病院新病棟着工
	2月 1日	医学部附属病院に診療科(形成外科)設置
	4月 1日	医学部に分子診断学講座(寄附講座)開設 医学部附属病院中央診療施設(輸血部)を(輸血・細胞治療部)に改める 医学部附属病院に難病医療相談支援センター設置
平成20年	5月 7日	医大保育所きり開所
	7月 1日	医学部附属病院中央診療施設(医療機器管理部)設置
	10月 1日	がん教育研究センター設置 医学部に地域医療学講座(寄附講座)開設
平成21年	11月28日	医学部附属病院開院30周年記念式典
平成20年	1月 1日	分子イメージング先端研究センターに分子解剖学研究部門開設
	4月 1日	助産学専攻科設置
平成21年	4月 1日	大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所に参加 事務局部制を廃止し、研究協力課及び病院経営支援課設置
平成22年	6月29日	医学部附属病院新病棟竣工
	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設(診療情報管理部)設置
	5月 1日	医学部に児童青年期精神医学講座(寄附講座)開設
平成23年	4月 1日	光量子医学研究センター及び分子イメージング先端研究センターを改組・統合し、メディカルフォトニクス研究センター設置 産学官共同研究センター(PET-CT棟、サイクロtron棟)設置 医学部に臨床医学教育学講座(寄附講座)開設
	6月 9日	医学部附属病院に診療科(病理診断科)設置
	平成24年	1月 1日

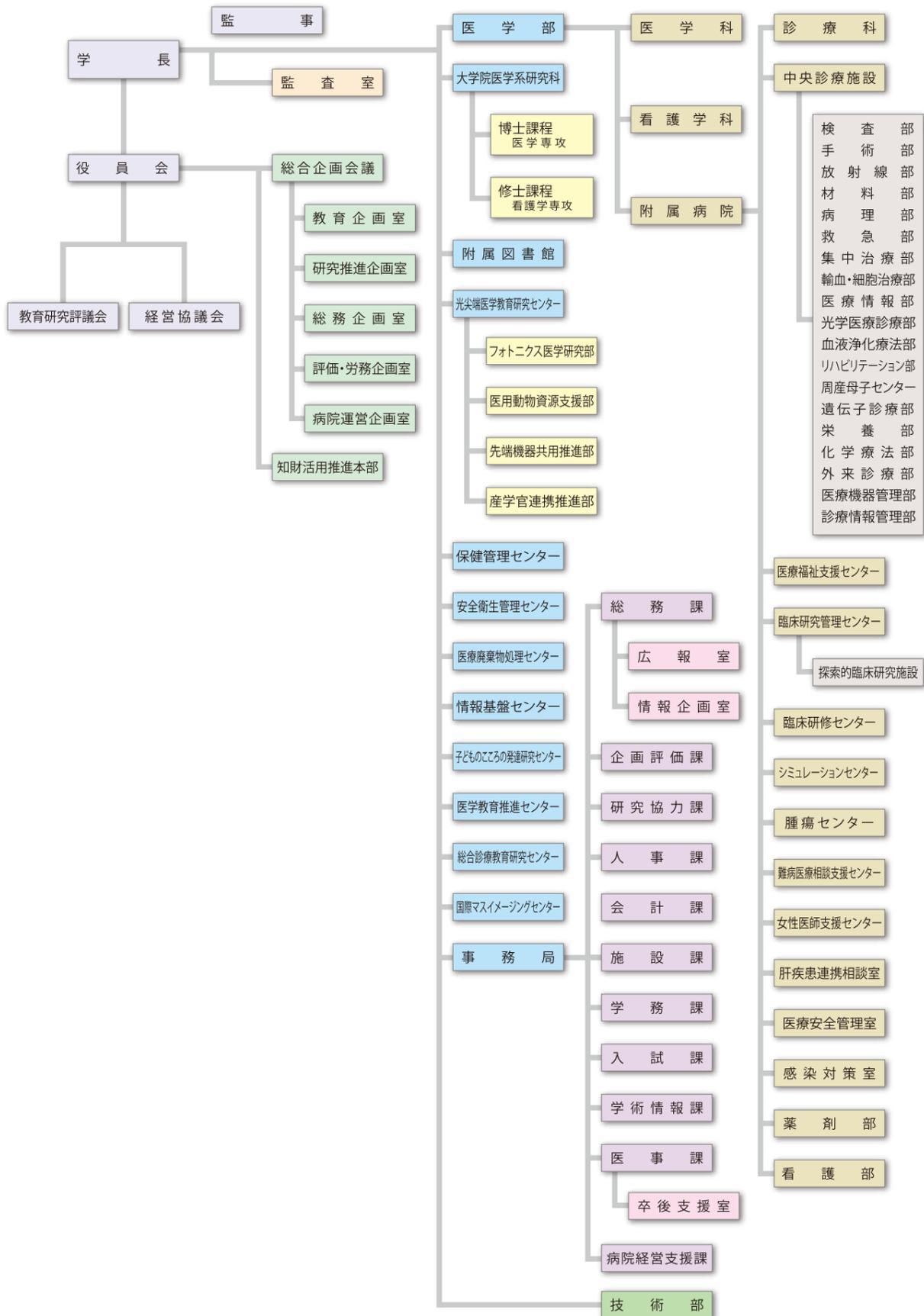
平成24年	4月 1日	医学部医学科の生理学第一講座を神経生理学講座、生理学第二講座を医生理学講座、生化学第一講座を分子生物学講座、生化学第二講座を医化学講座、病理学第一講座を腫瘍病理学講座、病理学第二講座を再生・感染病理学講座、精神神経医学講座を精神医学講座、耳鼻咽喉科学講座を耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座、救急医学講座を救急災害医学講座に名称変更 大学院医学系研究科博士課程の専攻(光先端医学、高次機能医学、病態医学、予防・防御医学)を医学専攻に改組 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所を大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所に変更 医学教育推進センター設置 医学部附属病院にシミュレーションセンター設置 事務局の病院再整備推進事務局廃止
	5月28日	医学部医学科に講座(臨床腫瘍学)開設
	6月 1日	医学部に産婦人科家庭医療学講座(寄附講座)開設
	8月 1日	情報処理センターを情報基盤センターに改組 広報室設置
平成25年	4月 1日	医学部附属病院に診療科(小児外科)設置 医学部附属病院に肝疾患連携相談室及び感染対策室設置
	11月 1日	医学部に地域家庭医療学講座(寄附講座)開設
平成26年	2月 1日	医学部附属病院に女性医師支援センター設置
	4月 1日	学長付企画推進室設置
	7月10日	学章及びシンボルマークを制定
平成24年	11月22日	開学40周年記念式典

平成27年	4月 1日	放射線医学講座を放射線診断学・核医学講座及び放射線腫瘍学講座に改組 医学部附属病院診療科(放射線科)を(放射線診断科)及び(放射線治療科)に改組 助産学専攻科を廃止し、大学院医学系研究科修士課程に助産師養成コースを設置 がん教育研究センターを廃止し、臨床腫瘍学講座に業務を移行
	平成28年	1月 1日
平成28年	4月 1日	医学部医学科の解剖学講座を器官組織解剖学講座及び細胞分子解剖学講座に改組 医学部医学科の感染症学講座を細菌・免疫学講座及びウイルス・寄生虫学講座に改組 総合診療教育研究センター設置 国際マスメイジングセンター設置 医学部に長寿運動器疾患教育研究講座(寄附講座)開設 広報室、情報企画室を総務課へ編入 事務局に企画評価課設置 事務局医事課に卒後支援室設置 学長付企画推進室廃止



組織

国立大学法人浜松医科大学



歴代学長・役員等

歴代学長	初代 吉利 和 昭和49年 6月 7日～昭和61年 3月31日	第4代 山崎 昇 平成 8年 5月 1日～平成12年 4月30日
	第2代 中井 準之助 昭和61年 4月 1日～平成 2年 3月31日	第5代 寺尾 俊彦 平成12年 5月 1日～平成22年 3月31日
	第3代 川島 吉良 平成 2年 5月 1日～平成 8年 4月30日	第6代 中村 達 平成22年 4月 1日～平成28年 3月31日

学長	今野 弘之
----	-------

理事・副学長	
教育・産学連携担当	山本 清二
企画・評価担当	金山 尚裕

理事・事務局長	
財務担当	前田 広

理事	
経営担当	非常勤 晝馬 明

経営協議会	
学長	今野 弘之
理事(教育・産学連携担当)・副学長	山本 清二
理事(企画・評価担当)・副学長	金山 尚裕
理事(財務担当)・事務局長	前田 広
理事(経営担当)	晝馬 明
副学長(病院担当)	(兼)教授 松山 幸弘
浜松市文化振興財団代表理事	伊藤 修二
医療研修推進財団特別顧問	猿田 享男
静岡県医師会会長	篠原 彰
浜松信用金庫理事長	御室健一郎
東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会副事務総長	布村 幸彦
堺市立病院機構理事長	門田 守人
千葉大学大学院看護学研究科教授	正木 治恵

監事	西山 仁
	非常勤 村本 淳子

副学長	
教育改革担当	(兼)教授 宮嶋 裕明
情報・広報担当	(兼)教授 浦野 哲盟
研究担当(光先端医学教育研究センター長)	(兼)教授 蓑島 伸生
病院担当(病院長)	(兼)教授 松山 幸弘

学長特別補佐	
カリキュラム担当	(兼)教授 梅村 和夫
国際化促進担当	(兼)教授 福田 敦夫

教育研究評議会	
学長	今野 弘之
理事(教育・産学連携担当)・副学長	山本 清二
理事(企画・評価担当)・副学長	金山 尚裕
理事(財務担当)・事務局長	前田 広
副学長(教育改革担当)	(兼)教授 宮嶋 裕明
副学長(情報・広報担当)	(兼)教授 浦野 哲盟
副学長(研究担当)	(兼)教授 蓑島 伸生
副学長(病院担当)	(兼)教授 松山 幸弘
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	教授 峯田 周幸
臨床薬理学講座	教授 渡邊 裕司
総合人間科学講座(情報医学)	教授 谷 重喜
分子生物学講座	教授 北川 雅敏
再生・感染病理学講座	教授 岩下 寿秀
基礎看護学講座	教授 永田 年
臨床看護学講座	教授 森 恵子

医学部

医学科／基礎講座

総合人間科学講座(倫理学)	教授	森下 直貴
総合人間科学講座(心理学)	准教授	田中 悟志
総合人間科学講座(法学)	教授	大磯義一郎
総合人間科学講座(数学)	教授	古屋 淳
総合人間科学講座(物理学)	教授	笹倉 裕之
総合人間科学講座(化学)	教授	藤本 忠蔵
総合人間科学講座(生物学)	教授	針山 孝彦
総合人間科学講座(英語)	教授	中安美奈子
総合人間科学講座(情報医学)	教授	谷 重喜
器官組織解剖学講座	教授	佐藤 康二
細胞分子解剖学講座	教授	瀬藤 光利
神経生理学講座	教授	福田 敦夫
医生理学講座	教授	浦野 哲盟
分子生物学講座	教授	北川 雅敏
医化学講座	教授	才津 浩智
腫瘍病理学講座	教授	梶村 春彦
再生・感染病理学講座	教授	岩下 寿秀
薬理学講座	教授	梅村 和夫
細菌・免疫学講座	教授	堀井 俊伸
ウイルス学・寄生虫学講座	教授	鈴木 哲朗
健康社会医学講座	教授	尾島 俊之
法医学講座	教授	渡部加奈子

看護学科

基礎看護学講座	教授	渡邊 泰秀
	教授	三浦 克敏
	教授	永田 年
臨床看護学講座	教授	片山 はるみ
	教授	森 恵子
	教授	佐藤 直美
	教授	鈴木 みづえ
	教授	武田江里子
地域看護学講座	教授	安田 孝子
	教授	巽 あさみ

医学科／臨床講座

内科学第一講座 (消化器・腎臓・神経内科学分野)	教授	宮嶋 裕明
内科学第二講座 (内分泌・呼吸・肝臓内科学分野)	教授	須田 隆文
内科学第三講座 (循環器・血液・免疫リウマチ内科学分野)	教授	林 秀晴
精神医学講座	教授	山末 英典
外科学第一講座 (心臓血管・呼吸器・一般(内視鏡)・乳腺外科学分野)	教授	椎谷 紀彦
外科学第二講座 (消化器・血管外科学分野)	准教授	海野 直樹
脳神経外科学講座	教授	難波 宏樹
整形外科学講座	教授	松山 幸弘
皮膚科学講座	教授	戸倉 新樹
泌尿器科学講座	教授	大園誠一郎
眼科学講座	教授	堀田 喜裕
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	教授	峯田 周幸
放射線診断学・核医学講座	教授	阪原 晴海
放射線腫瘍学講座	教授	中村 和正
麻酔・蘇生学講座	教授	中島 芳樹
産婦人科学講座	准教授	杉原 一廣
小児科学講座	教授	緒方 勤
歯科口腔外科学講座	教授	加藤 文度
臨床検査医学講座	教授	前川 真人
臨床薬理学講座	教授	渡邊 裕司
救急災害医学講座	教授	吉野 篤人
臨床腫瘍学講座	教授	山田 康秀

寄附講座

地域医療学講座	特任教授	山岡 泰治
児童青年期精神医学講座	特任教授	高貝 就
臨床医学教育学講座	特任准教授	五十嵐 寛
地域周産期医療学講座	特任准教授	飯嶋 重雄
産婦人科家庭医療学講座	特任教授	杉村 基
地域家庭医療学講座	特任教授	沖 隆
長寿運動器疾患教育研究講座	特任准教授	戸川 大輔

附属図書館

館長 (兼)教授 浦野 哲盟

保健管理センター

センター長 (兼)教授 堀田 喜裕

光先端医学教育研究センター

センター長 (兼)教授 蓑島 伸生

フォトニクス医学研究部

部長 (兼)教授 間賀田泰寛

光イメージング研究室 准教授 矢尾 育子

光ゲノム医学研究室 教授 蓑島 伸生

システム分子解剖学研究室 教授 瀬藤 光利

分子病態イメージング研究室 教授 間賀田泰寛

イノベーション光医学研究室

医学分光応用寄附研究室 特任教授 岡崎 茂俊

生体機能イメージング研究室 教授 尾内 康臣

生体医用光学研究室 教授 星 詳子

医用動物資源支援部

部長 (兼)教授 北川 雅敏

先進機器共用推進部

部長 (兼)教授 福田 敦夫

産学官連携推進部

部長 (兼)准教授 小野寺雄一郎

安全衛生管理センター

センター長 (兼)理事 前田 広

医療廃棄物処理センター

センター長 (兼)教授 藤本 忠蔵

情報基盤センター

センター長 (兼)教授 谷 重喜

子どものこころの発達研究センター

センター長 教授 武井 教使

医学教育推進センター

センター長 (兼)教授 梅村 和夫

総合診療教育研究センター

センター長 (兼)教授 尾島 俊之

国際マスメーキングセンター

センター長 (兼)教授 瀬藤 光利

監査室

室長 田端 宏行

事務局

事務局長 前田 広

事務局次長(総務・教育担当) 山中 和之

事務局次長(病院担当) 岡田 俊

総務課長 大森 達郎

企画評価課長 葛山 雅弘

研究協力課長 太田 正人

人事課長 大谷 理恵

会計課長 坂本 和浩

施設課長 松井 宏文

学務課長 大木 清造

入試課長 長井 亨悟

学術情報課長 吉岡 文

医事課長 前島 耕志

病院経営支援課長 鈴木 康正

医学部附属病院

病院長

松山 幸弘

副病院長

教育・研修担当	(兼)教授 須田 隆文
運営・管理担当	(兼)教授 緒方 勤
リスクマネジメント担当	(兼)教授 中島 芳樹
患者サービス担当	看護部長 鈴木美恵子

診療科(科長)

一般内科	(兼)教授 松山 幸弘
第一内科診療科群	教授 宮嶋 裕明
消化器内科	准教授 杉本 健
腎臓内科	講師 安田日出夫
神経内科	教授 宮嶋 裕明
第二内科診療科群	教授 須田 隆文
内分泌・代謝内科	講師 佐々木茂和
呼吸器内科	教授 須田 隆文
肝臓内科	病院講師 小林 良正
第三内科診療科群	教授 林 秀晴
循環器内科	教授 林 秀晴
血液内科	病院講師 小野 孝明
免疫・リウマチ内科	講師 小川 法良
精神科神経科	教授 山末 英典
小児科	教授 緒方 勤
第一外科診療科群	教授 椎谷 紀彦
心臓血管外科	教授 椎谷 紀彦
呼吸器外科	准教授 船井 和仁
乳腺外科	病院講師 小倉 廣之
一般外科 (内視鏡外科を含む)	講師 和田 英俊
第二外科診療科群	教授(事務取扱) 松山 幸弘
上部消化管外科	講師 神谷 欣志
下部消化管外科	講師 神谷 欣志
肝・胆・膵外科	講師 坂口 孝宣
血管外科	准教授 海野 直樹
脳神経外科	教授 難波 宏樹
整形外科	教授 松山 幸弘
皮膚科	教授 戸倉 新樹
泌尿器科	教授 大園誠一郎

眼科	教授 堀田 喜裕
耳鼻咽喉科	教授 峯田 周幸
産科婦人科	教授 松山 幸弘 (事務取扱)
放射線科診療科群	教授 阪原 晴海
放射線診断科	教授 阪原 晴海
放射線治療科	教授 中村 和正
麻酔科蘇生科	教授 中島 芳樹
歯科口腔外科	教授 加藤 文度
リハビリテーション科	病院教授 美津島 隆
形成外科	病院教授 深水 秀一
臨床薬理内科	教授 渡邊 裕司
病理診断科	病院教授 馬場 聡
小児外科	特任准教授 川原 央好

中央診療施設(部長・センター長)

検査部	教授 前川 真人
手術部	教授 中島 芳樹
放射線部	教授 阪原 晴海
材料部	教授 椎谷 紀彦
病理部	病院教授 馬場 聡
救急部	教授 吉野 篤人
集中治療部	特任准教授 土井 松幸
輸血・細胞治療部	病院教授 竹下 明裕
医療情報部	教授 木村 通男
光学医療診療部	教授 峯田 周幸
血液浄化療法部	病院教授 加藤 明彦
リハビリテーション部	病院教授 美津島 隆
周産母子センター	病院教授 伊東 宏晃
遺伝子診療部	教授 緒方 勤

栄養部	病院教授 加藤 明彦
化学療法部	教授 山田 康秀
外来診療部	教授 緒方 勤
医療機器管理部	教授 中島 芳樹
診療情報管理部	教授 堀田 喜裕

医療福祉支援センター

センター長 特任教授 小林 利彦

臨床研究管理センター

センター長 (兼)教授 梅村 和夫

臨床研修センター

センター長 (兼)教授 須田 隆文

シミュレーションセンター

センター長 (兼)特任准教授 五十嵐 寛

腫瘍センター

センター長 (兼)教授 山田 康秀

難病医療相談支援センター

センター長 (兼)教授 宮嶋 裕明

女性医師支援センター

センター長 (兼)教授 戸倉 新樹

肝疾患連携相談室

室長 (兼)病院講師 小林 良正

医療安全管理室

室長 (兼)教授 中島 芳樹

感染対策室

室長 (兼)教授 前川 真人

薬剤部

部長 教授 川上 純一

看護部

部長 鈴木美恵子

職員、学生等

職員数

区分	学長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	計	事務等	合計
事務局等	男	1	4	1				6	103	109
	女			1				1	49	50
医学部	男			45 (4)	26 (3)	2 (1)	72 (17)	145 (25)	6	151 (25)
	女			9	9	1	26 (5)	45 (5)	5	50 (5)
附属病院	男			3 (1)	12 (3)	36 (3)	37	88 (7)	161	249 (7)
	女					4 (1)	6 (2)	10 (3)	637	647 (3)
光先端医学教育研究センター	男			4 (1)	2		8 (5)	14 (6)	10	24 (6)
	女			1	2		3 (2)	6 (2)	6	12 (2)
保健管理センター	男					1		1		1
	女								1	1
医療廃棄物処理センター	男								2	2
	女								1	1
子どものこころの発達研究センター	男			1	1 (1)		1 (1)	3 (2)		3 (2)
	女						3 (3)	3 (3)		3 (3)
知財活用推進本部	男						1 (1)	1 (1)		1 (1)
	女									
合計	男	1	4	1	53 (6)	41 (7)	39 (4)	119 (24)	258 (41)	540 (41)
	女			1	10	11	5 (1)	38 (12)	65 (13)	764 (13)
合計		1	4	2	63 (6)	52 (7)	44 (5)	157 (36)	323 (54)	1,304 (54)

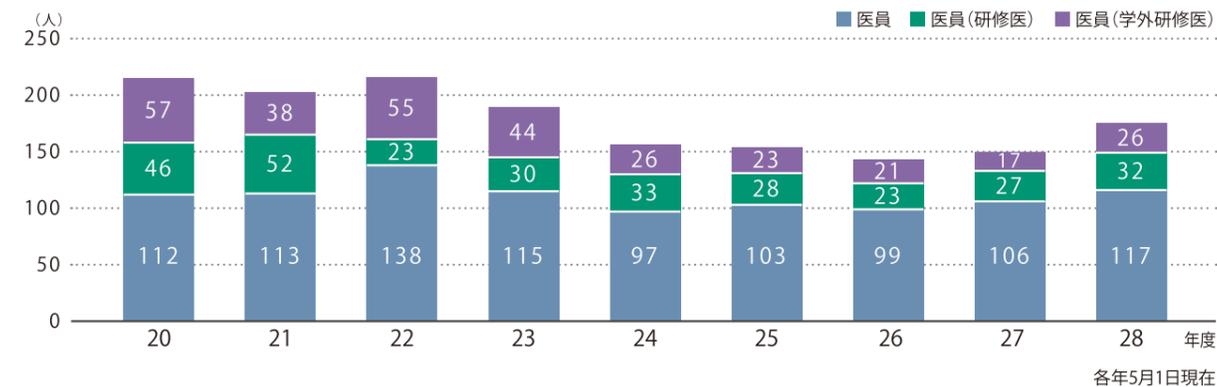
()内は特任教員を内数で示す

平成28年5月1日現在

区分	医員	医員(研修医)	合計
男	79	19	98
女	38	13	51
合計	117	32	149

平成28年5月1日現在

医員及び医員(研修医)の推移



各年5月1日現在

医学部

医学科

高度の知識・技術及び豊かな人間性を身につけた臨床医並びに医学研究者を養成し、医学・医療の発展と人類の健康増進並びに福祉に貢献することを目的としています。

建学の理念に基づき、これまで多くの優れた臨床医を養成して静岡県はもとより全国各地の医療に貢献しつつ、最先端の研究も行っています。世界でも先駆的な研究の一例を挙げると、光を利用してがんを治療したり、光を用いて人体の機能を解析する新技術の開発があり、これの実践のための特別な研究センターを設けています。

また、卒業生は臨床医、医学研究者、医学教育者のみならず、産業医、医療福祉行政者などとしても活躍しており、活動分野は多岐にわたっています。



看護学科

看護の実践・研究・教育分野において国内外で活躍できる人材を育成することにより、看護学の発展と人類の健康増進並びに福祉に貢献することを目的としています。

本学では4年間の学部生活の間に学生が科学的考え方を身につけ、人への配慮ができる看護専門職に育つための教育を行っています。卒業生の中には本学大学院修士課程に進み、看護学教育・研究者への道を歩む者もいます。



入学定員及び現員

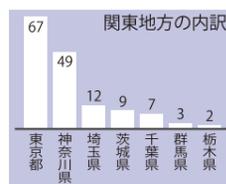
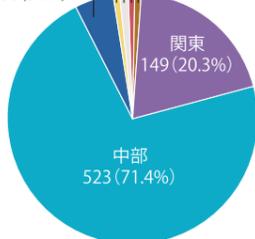
学科	現員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
医学科	入学定員 120(5)	男 67	78 (4)	82 (4)	84 (4)	78 (4)	75 (3)	464 (19)
	収容定員 715(25)	女 51	44 (1)	45 (2)	42 (1)	39 (1)	48 (3)	269 (8)
	合計	118	122 (5)	127 (6)	126 (5)	117 (5)	123 (6)	733 (27)
看護学科	入学定員 70(10)	男 5	1	6 (3)	7 (1)			19 (4)
	収容定員 260(20)	女 59	63	68 (7)	58 (9)			248 (16)
	合計	64	64	74 (10)	65 (10)			267 (20)

医学科の()内は、第2年次編入学を内数で示す
看護学科の()内は、第3年次編入学を内数で示す

平成28年5月1日現在

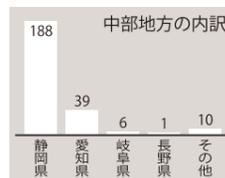
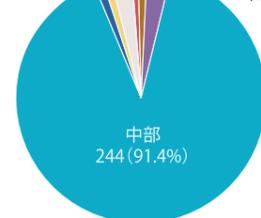
医学科地域別在学生数割合

九州7(1.0%)
中国・四国5(0.7%)
近畿38(5.2%)
北海道・東北6(0.8%)
外国等5(0.7%)
関東149(20.3%)



看護学科地域別在学生数割合

九州6(2.2%)
中国・四国3(1.1%)
近畿3(1.1%)
北海道・東北2(0.7%)
外国等3(1.1%)
関東6(2.2%)
中部244(91.4%)



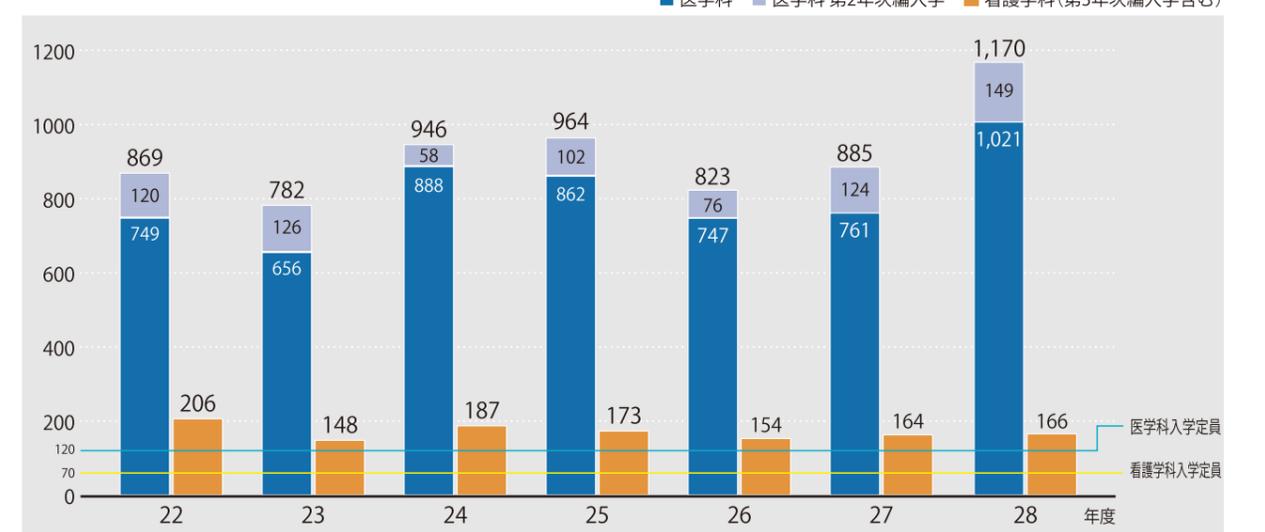
入学志願者及び入学者数

区分	医学科						看護学科					
	入学志願者			入学者			入学志願者			入学者		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
平成22年度	502 (89)	247 (31)	749 (120)	80 (4)	35 (1)	115 (5)	19 (0)	164 (23)	183 (23)	5 (0)	57 (10)	62 (10)
平成23年度	394 (85)	262 (41)	656 (126)	73 (3)	42 (2)	115 (5)	12 (1)	118 (17)	130 (18)	6 (1)	55 (9)	61 (10)
平成24年度	503 (33)	385 (25)	888 (58)	76 (3)	39 (2)	115 (5)	7 (2)	154 (24)	161 (26)	3 (1)	57 (9)	60 (10)
平成25年度	511 (65)	351 (37)	862 (102)	73 (4)	42 (1)	115 (5)	13 (2)	143 (15)	156 (17)	4 (1)	56 (9)	60 (10)
平成26年度	438 (50)	309 (26)	747 (76)	73 (4)	42 (1)	115 (5)	8 (1)	133 (12)	141 (13)	4 (1)	56 (8)	60 (9)
平成27年度	470 (91)	291 (33)	761 (124)	73 (3)	42 (2)	115 (5)	7 (1)	129 (27)	136 (28)	0 (1)	60 (9)	60 (10)
平成28年度	598 (107)	423 (42)	1,021 (149)	65 (4)	50 (1)	115 (5)	11 (11)	113 (31)	124 (42)	5 (3)	55 (7)	60 (10)

医学科の()内は、第2年次編入学を外数で示す
看護学科の()内は、第3年次編入学を外数で示す

平成28年5月1日現在

入学志願者状況



研究生数

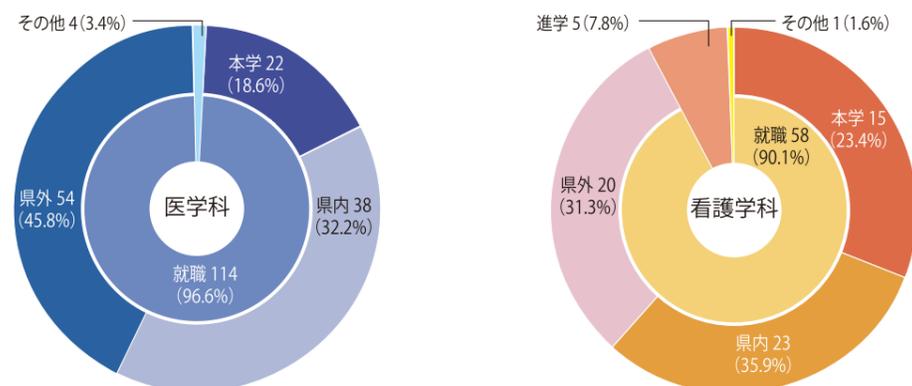
区分	28年度
男	4
女	3
合計	7

平成28年5月1日現在

卒業生数

区分	医学科							看護学科						
	S54~H22年度計	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計	H10~H22年度計	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
男	2,317	76	67	75	73	82	2,690	40	1	5	5	5	3	59
女	848	26	26	25	32	36	993	853	67	67	61	60	61	1,169
合計	3,165	102	93	100	105	118	3,683	893	68	72	66	65	64	1,228

平成27年度卒業生の進路状況



医師国家試験合格状況

区分	新卒			既卒			総数			全国順位
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	
第106回 2012	102	100	98.0	3	3	100.0	105	103	98.1	2
第107回 2013	93	87	93.5	2	1	50.0	95	88	92.6	28
第108回 2014	100	99	99.0	7	6	85.7	107	105	98.1	6
第109回 2015	105	105	100.0	2	1	50.0	107	106	99.1	1
第110回 2016	118	114	96.6	1	0	0.0	119	114	95.8	13

保健師・看護師国家試験合格状況(既卒者を含む)

区分	保健師			区分	看護師		
	受験者	合格者	合格率		受験者	合格者	合格率
第98回 2012	69	67	97.1	第101回 2012	58	58	100.0
第99回 2013	73	72	98.6	第102回 2013	62	62	100.0
第100回 2014	66	63	95.5	第103回 2014	57	57	100.0
第101回 2015	66	66	100.0	第104回 2015	54	54	100.0
第102回 2016	64	64	100.0	第105回 2016	55	55	100.0

大学院医学系研究科

博士課程

大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)は、国際的にリーダーシップを発揮できる基礎医学研究者と臨床研究医を養成することを目的としています。即ち、光先端医学を中心に幅広い専門分野の授業科目を履修することを基礎に、基礎研究者を目指す学生には高度の専門的知識と技術を身につけ、独創的な先端研究を遂行できる能力を養成します。

また、臨床研究医を目指す学生には、臨床研究を更に推進することができるような研究マインドを持ち、臨床の現場で広く求められる応用力を養成します。



修士課程

大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)では、これまで習得した専門的知識・技術を基盤に、科学的思考力、問題解決力、創造性と基本的な研究能力を養い、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者を養成します。

また、1年課程の助産学専攻科を廃止し、平成27年4月から修士課程に2年制の助産師養成コースを開設しました。修了後は、修士(看護学)の学位が授与され、助産師国家試験の受験資格が得られます。



入学定員及び現員

博士課程

区分	現員	1年	2年	3年	4年	合計	
光先端医学専攻	※入学定員 11	男	—	—	—	0	0
	※収容定員 44	女	—	—	—	1	1
	合計	—	—	—	—	1	1
高次機能医学専攻	※入学定員 5	男	—	—	—	0	0
	※収容定員 20	女	—	—	—	0	0
	合計	—	—	—	—	0	0
病態医学専攻	※入学定員 8	男	—	—	—	5	5
	※収容定員 32	女	—	—	—	0	0
	合計	—	—	—	—	5	5
予防・防御医学専攻	※入学定員 6	男	—	—	—	2	2
	※収容定員 24	女	—	—	—	2	2
	合計	—	—	—	—	4	4
医学専攻	入学定員 30	男	25	31 (2)	25 (1)	35 (2)	116 (5)
	収容定員 120	女	4	6	8	14 (1)	32 (1)
	合計	29	37 (2)	33 (1)	49 (3)	148 (6)	

()内は10月入学を内数で示す ※は平成23年度以前の定員を示す

平成28年5月1日現在

修士課程

区分	現員	1年	2年	合計	
看護学専攻	入学定員 16	男	2	4 (3)	6 (3)
	収容定員 32	女	14	32 (17)	46 (17)
	合計	16	36 (20)	52 (20)	

()内は平成26年以前入学の長期履修者を内数で示す

平成28年5月1日現在

入学者数

区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
博士課程(男)	22	21	25	24	25	29	25
“(女)	4	11	7	11	8	5	4
合計	26	32	32	35	33	34	29
修士課程(男)	3	1	3	2	3	1	2
“(女)	14	15	12	15	13	15	14
合計	17	16	15	17	16	16	16

平成28年5月1日現在

学位授与者数

区分	S58~H21 年度計	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
博士課程(医学)	578	27	26	24	28	22	27
論文博士(医学)	477	8	11	9	7	5	9
修士課程(看護学)	128	15	23	8	11	13	13
合計	1,183	50	60	41	46	40	49

研究生数

区分	28年度
男	29
女	6
合計	35

平成28年5月1日現在

助産師国家試験合格状況

区分	助産師		
	受験者	合格者	合格率
第95回 2012	15	15	100.0
第96回 2013	16	16	100.0
第97回 2014	16	16	100.0
第98回 2015	16	16	100.0
第99回 2016	大学院修士課程へ移行1年目のため該当者なし		



国際交流

外国人留学生

国名	大学院		合計
	国費	私費	
中国	1	4	5
バングラデシュ		3	3
ベトナム	2	1	3
インド	1		1
合計	4	8	12

平成28年5月1日現在



ワルシャワ医科大学副学長来学(平成27年4月)

国際交流協定・姉妹校

大学名等(国名)	締結年月日	協定等の内容
中国医科大学(中国)	1988. 4. 29	姉妹校協定
慶北大学校医科大学(韓国)	1992. 9. 7	学術交流協定
慶北大学校看護大学(韓国)	2005. 9. 23	
上海交通大学医学院(中国) (旧:上海第二医科大学)	2000. 3. 24	学術交流協定
フライブルク大学医学部 (ドイツ)	2003. 6. 30	学術交流協定
河南中医学院(中国)	2003.12. 8	学術交流協定
ピャウリストク医科大学 (ポーランド)	2004. 4. 19	学術交流協定
ダッカ大学(バングラデシュ)	2004.11.12	学術交流協定
シャジャラル科学技術大学 (バングラデシュ)	2004.11.12	学術交流協定
ボンゴボンデュセイクムジブ 医科大学(バングラデシュ)	2004.11.12	学術交流協定
广西医科大学(中国)	2004.11.21	学術交流協定
ワルシャワ医科大学(ポーランド)	2010. 4. 1	学術交流協定
ルブリン医科大学(ポーランド)	2010. 4. 5	学術交流協定
デュッセルドルフ大学(ドイツ)	2012. 8. 9	学術交流協定
ハワイ大学(アメリカ)	2016. 2. 3	学術交流協定
ヒッタイト大学(トルコ)	2013.12.17	学術交流協定

平成28年5月1日現在



外国人留学生実地見学旅行(平成27年11月岐阜・福井)



国際交流のつどい(平成28年2月)

国際交流会館の概要

区分	棟名	単身棟	世帯棟
建築面積		206㎡	147㎡
建物延面積		554㎡	567㎡
室数		単身室 (14㎡) 20室	夫婦室 (40㎡) 6室
		ミーティングルーム (19㎡) 1室	家族室 (59㎡) 4室



国際交流会館

学内共同教育研究施設

▶▶ 光先端医学教育研究センター TEL(053)435-2390 センター長 養島 伸生

本センターでは、本学の強みである「光技術の医学応用とイメージング」及び「産学官連携によるものづくり」の実績を活かし、それらをさらに先鋭化して、他分野も含めた新たな基礎／応用研究・実用化開発・教育(人材養成)を医学部各講座とともに推進している。

● フォトニクス医学研究部 TEL(053)435-2398 部長 間賀田 泰寛 副部長 星 詳子

光量子医学研究センターと分子イメージング先端研究センターの統合により設置された旧メディカルフォトニクス研究センターを母体とする。光とイメージングを医学に応用する研究の遂行と人材育成を目的としている。光・分子イメージングによる生命現象の探求、イメージング法を活用した診断技術や医療機器、臨床診断用標識薬剤の開発、オミックス手法を活用した疾患原因追究、光による腫瘍の治療法の開発・改良等、多様な先端的研究が、培養細胞、動物、ヒト個体を対象として進行中である。

- ・光イメージング研究室(2092)
- ・光ゲノム医学研究室(2390)
- ・システム分子解剖学研究室(2292)
- ・分子病態イメージング研究室(2398)
- ・イノベーション光医学研究室(2391)
- ・医学分光応用寄附研究室※(2235)
- ・生体機能イメージング研究室(2466)
- ・生体医用光学研究室(2329)

※浜松ホトニクス(株)寄附



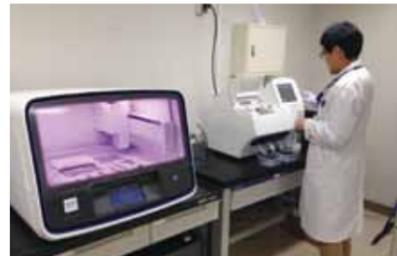
● 医用動物資源支援部 TEL(053)435-2000 部長 北川 雅敏 副部長 加藤 秀樹

旧動物実験施設は平成27年度に光先端医学教育研究センターの1部門として医用動物資源支援部に改組された。本支援部は光医学研究および医学研究全般における動物実験の場を提供し、動物実験に関する専門的、先進的な知識及び技術の支援を行っている。また、実験動物学等、学部および大学院における教育にも貢献している。技術開発および研究としては、ヒト疾患モデル動物としての突然変異マウスの独自の作製法を確立し、実験動物科学としての一分野を推進している。加えて、コモンマウス種の育種／繁殖に注力し、新たな実験動物として学内利用の推進を図っている。



● 先進機器共用推進部 TEL(053)435-2300 部長 福田 敦夫 副部長 内田 千晴

先進機器共用推進部は、先進機器研究推進室と機器共用支援部門から成り、基礎臨床研究棟、RI棟、および動物実験施設増設棟内に複数の共同実験室を有している。当部の役割は、教育研究設備の共同利用及びその運営体制の統合により、研究の効率化と発展につなげることである。先進機器研究推進室では先進機器を活用した学内共同研究を推進し、機器共用支援部門では、専門知識と技術をもった職員が共用研究機器を用いた受託解析等を行い、本学の教育研究支援を担っている。



● 産学官連携推進部 TEL(053)435-2438 部長 小野寺 雄一郎

ものづくり地域「浜松」の技術力と産業開発力に「医療・医学」のシーズ・ニーズを加え「健康・医療産業」を創出・確立していく事業である、JST地域産学官共同研究拠点整備事業「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業」の中核施設として平成23年4月に設置された。サイクロトロン棟、PET-CT棟からなり、産学官共用設備を持つ。学内の研究用MRI、CT、動物用PETも管理し、小動物からヒトまでを対象としたイメージング装置を備えたユニークな施設である。対外的には産学官・医工連携のワンストップ窓口として活発に活動している。



▶▶ 保健管理センター TEL(053)435-2156,2158

センター長 堀田 喜裕

保健管理センターは学生と職員の健康を保持・増進するために、昭和60年に設置された。平成25年度に施設内部を全面改修し、医師・保健師・臨床心理士などを充実して、より一層プライバシーを尊重した環境で、“こころ”と“からだ”両面の相談が行えるようになった。学内外の関連部門・施設との連携もよい。健康診断とその事後措置だけでなく、学内の環境衛生の整備、感染症対策、保健管理に関する調査・研究にも力を入れている。



▶▶ 安全衛生管理センター TEL(053)435-2187

センター長 前田 広

安全衛生管理センターは平成15年4月に設置され、安全衛生管理に関する全学的事項を企画・立案するとともに、教育・研究に伴って発生するおそれのある環境汚染、健康障害、事故及び災害に対する安全衛生管理の徹底を図ることを目的としている。

主な取組としては、労働安全衛生法等に基づく作業環境測定、学内巡視、局所排気装置の自主点検、薬品調査等並びに職場における労働者の安全と健康の促進、快適な職場環境の確保のための5S活動等がある。



▶▶ 医療廃棄物処理センター TEL(053)435-2159

センター長 藤本 忠蔵

医療廃棄物処理センターでは、大学の研究室や病院から排出される廃水を活性汚泥や活性炭吸着などで適正に処理し、水質の分析を行ってから下水道に放流している。また、廃溶剤、廃酸、不要になった薬剤や実験器具などを回収し、適切な処理方法により分類してから廃棄物処理業者に処分を委託している。さらに、教職員・学生に対して、大学での廃水や医療系も含む廃棄物全般について分別処理方法の指導を行っている。



▶▶ 情報基盤センター TEL(053)435-2182

センター長 谷 重喜

情報基盤センターは、学内のネットワーク、メールサーバ、大学HPなど各種基幹サーバ、情報系実習室など、大学の情報基盤を提供、運営している。学内随所に無線LANのスポットが設置され、情報系実習室では教師と学生の双方向の画面提示や操作が可能となっている。今後も時代を先取りする情報基盤を提供していく。



附属図書館

附属図書館は、本学の学術情報基盤の一部であり、印刷資料や電子ジャーナル・各種データベース、そして本学の学術成果物を電子的に蓄積し、広く学外へ発信する学術機関リポジトリを設置・運用するなど、電子図書館の機能を強化しています。

また、これらの学術情報資源を十分に活用できるよう、学生・教職員対象の情報リテラシー教育支援を行う等、知的創造活動の拠点としての機能も担っています。平成25年4月からはラーニング・コモンズを開設して、多様な学習スタイルのニーズに応じた学習空間を提供しています。

さらには、近隣医療従事者への資料の貸出、県内外の病院等と連携した文献複写提供サービスなど、地域へのサービスにも務めています。

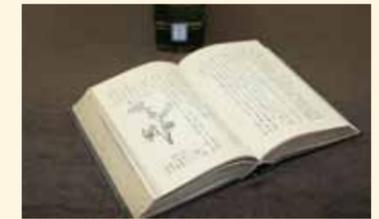
開館時間

平日 9:00～20:00
土・日曜 10:00～17:00

本学構成員は、24時間入館可能な特別利用制度を利用できます。

貴重資料

明治11～12年に浜松医学校
教官らが米国の医学書を翻訳
出版した『七科約説』



子どものこころの発達研究センター TEL(053)435-2331

センター長 武井 教使

同センターを設置する他大学(大阪大学、金沢大学、千葉大学、福井大学、弘前大学)と連携して、当センターは子どもの発達にかかわる研究に多面的、有機的に取り組んで来ている。本学センターでは一例として、浜松出生コホートを運営し、子どもの発達における、心理発達に限らず発達上の諸々の問題を明らかにしようと、長期追跡疫学調査を展開している。また、同時に運営する連合小児発達学研究所(大学院)における教育活動を通して、子どものこころの専門家を育成してきている。



医学教育推進センター TEL(053)435-2843

センター長 梅村 和夫 副センター長 五十嵐 寛

医学教育推進センターは、本学の教育に関する諸活動を体系的に行い、教育の質の向上を図ることを目的に、平成24年4月に設置された。主な活動として、教育システム及びカリキュラム、PBL・チュートリアル教育、医学概論、参加型臨床実習等に関する調査、研究及び、実施を行っている。

さらに、それらを横断的に統括し、より良いカリキュラムを構築するための活動をしている。また、教育学的理論に基づいたカリキュラム改革を進め、医学教育に関する最新情報の発信基地として位置づけられている。



総合診療教育研究センター TEL(053)435-2149 (総務課専門職員)

センター長 尾島 俊之 副センター長 鳴本 敬一郎

平成28年度に設置された新しいセンターである。地域でのプライマリ・ケアができる総合診療医の養成と地域への定着を促進し、静岡県の地域医療の充実に貢献することを目的としている。学部学生の教育、医学部附属病院の初期研修プログラム、専門研修プログラムの総括・管理・運営、教育・研究の支援、推進体制・指導体制・地域との連携や調整等を行っている。教育研究の実務は、森町家庭医療クリニック、菊川市家庭医療センター等の地域の現場で行っている。



国際マスメージングセンター TEL(053)435-2086

センター長 瀬藤 光利 副センター長 梶村 春彦

国際マスメージングセンターは、平成28年4月に設置された。ブルカー・ダルトニクス株式会社より米国、ドイツに並ぶアジアのグローバルデモ拠点として選定され、マスメージングの手法の標準化に取り組んでいる。同社より新たに貸与された2台の先端の装置を利用し病理組織のマスメージング解析を推進している。また、これまで共同研究を行ってきた株式会社島津製作所、アルバック・ファイ株式会社、ウォータースコーポレーションを加えた4企業とも引き続き学内外の共同研究を行っている。



利用状況

区分	学内者(人)	学外者(人)	合計(人)	
入館者数	開館時間内	83,499	2,323	85,822
	開館時間外	35,475	451	35,926
	合計	118,974	2,774	121,748

区分	図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚資料(点)
貸出数	6,368	376	112

区分	受付数(件)	依頼数(件)
文献複写	2,392	2,044

平成27年度

蔵書数

区分	和	洋	合計
図書	59,559冊	31,844冊	91,403冊
雑誌	1,166種	1,040種	2,206種
視聴覚資料	1,382点		1,382点
電子書籍	173タイトル	39タイトル	212タイトル

平成28年3月31日現在

資料受入数

区分	和	洋	合計
図書	1,855冊	181冊	2,036冊
雑誌	427種	59種	486種
視聴覚資料	90点		90点
電子ジャーナル	7,040種		7,040種
電子書籍	83タイトル	0タイトル	83タイトル

平成27年度



2階ラーニング・コモンズ



1階ラーニング・コモンズ



1階AV視聴コーナー

地域・社会貢献

浜松医科大学では、教育、研究に次いで、社会貢献を第三の重要な事業活動と位置づけ、これに対する取組を進めています。医科大学としての社会貢献の第一は、附属病院における医療活動です。外来診療、入院治療、救急処置、検査等、多数の活動をしています。地域社会に対する様々な支援事業が第二の活動で、相談会や市民・中高生に対する各種講座を開催するなどしています。第三の活動として、大学の中で考案された新しい技術を実際に使えるものとして企業に移転したり、専門能力を生かして企業の事業化を支援したり、共同研究をしたりする産学官連携事業があります。

社会貢献事業への支援

本学における社会貢献活動を推進するため、教員等による活動実績に対して支援を行っています。平成27年度は「地域教育に対する活動」12件、「地域医療や公衆衛生に貢献する社会活動」11件を採択しました。

地域教育に対する活動

活動名	対象	担当
輸血と細胞医療に関する医学の紹介	高校生	輸血・細胞治療部
静岡県こどもの精神保健フォーラム	こどもの精神保健に携わる医師(精神科・小児科)および看護師、教諭、精神保健福祉士、臨床心理士、児童相談所職員、自治体行政職員など	精神医学講座
浜松市市民公開講座	浜松市民	医生理学講座
市民公開講座(熱中症予防)	雄踏町小中学校教員および保護者	医生理学講座
アフリカツメガエルの発生過程を観察し、内臓器官を知ろう	小中学生	腫瘍病理学講座
第3回「親子で学ぶ医学セミナー」	静岡県内在住の小学5・6年生の児童と保護者	臨床医学教育学講座
オリンピックチャレンジ(科学オリンピックへの挑戦支援事業)	県内高校生	生物学講座
児童生徒の情動行動に関する啓発イベントの開催:教育に科学を!~情動行動科学の挑戦~	小中高の教員、一般市民	子どものこころの発達研究センター
命のはじまりのはじまり 動物発生 見て、触って、感じよう	小中高生と保護者	医化学講座
中学校における性教育の試み	県内の中学生	産婦人科学講座
磐田南高校・浜松医科大学高大連携の実習プロジェクト	県内高校生	再生・感染病理学講座
いのちの授業	地域住民(小中高生、大人、障がい児とその保護者)	地域看護学講座

平成27年度

地域医療や公衆衛生に貢献する社会活動

活動名	対象	担当
県西部病院材料部連絡協議会	県西部地域病院材料部代表者	材料部
超高齢社会における模擬患者を用いた認知症看護体験学習プログラムの開発:看護教育における高齢者一看護学生相互交流促進と急性期病院における看護師の認知症高齢者とのコミュニケーション技能の向上をめざして	地域高齢者、看護学生、看護師	地域看護学講座
地域包括ケアシステムの構築をめざした急性期病院と介護保険施設をパーソン・センタード・ケアでつなぐ認知症研修プログラムの開発と展開	看護師、介護福祉職、認知症ケアに携わる職種	地域看護学
静岡リウマチネットワーク	関節リウマチ患者	第三内科
弾性ストッキングコンダクター講習会	医療従事者	第二外科
さんぽ会(医療的ケアが必要な重症心身障がい児と家族の外出支援)	在宅にて医療的ケアを必要とする重症心身障がい児と家族、医師、保健師、PT、栄養士、調理師、学生ボランティア	臨床看護学講座
看護職のための睡眠保健指導セミナー	浜松市保健師、近隣の看護職・医師など	地域看護学講座
自治体等への保健活動・調査支援講座	静岡県内で地域保健または産業保健活動に取り組み、保健活動・調査の技術向上に関心のある自治体、事業所など	健康社会医学講座
母親の産後抑うつが乳幼児の行動発達に与える影響とその予防—Hamamatsu Birth Cohortに基づいた活動—	浜松医科大学附属病院と近隣の産院で出産した母親とその児	子どものこころの発達研究センター
菓子類摂取と乳幼児の発達に関する疫学研究ならびに地域連携—Hamamatsu Birth Cohortに基づいて—	浜松医科大学附属病院と近隣の産院で出産した母親の児	子どものこころの発達研究センター
第2回森町クリニック祭り	森町及び近隣住民、クリニック外来患者とその家族	地域家庭医療学講座

平成27年度

産学官連携活動

日々の教育・研究・診療の中から生まれる多くの研究シーズ、知的財産、ノウハウ、暗黙知等を「知」という大切な財産であると考えます。この「知」を他大学や民間機関等と連携して社会に還元していく産学官連携活動を積極的に進めています。

活動名	連携相手先	担当
レーザー血栓溶解治療システムの開発	企業(浜松市)、他機関	薬理学講座
マイクロニードルのデリバリーシステム構築	企業(浜松市)	皮膚科学講座
四肢リンパ浮腫の診断	企業(浜松市)、他機関	外科学第二講座
注視点検出技術を活用した発達障がい診断システムの開発	企業(県外)、他機関	子どものこころの発達研究センター
指接着型の胎児パルスオキシメーターの開発	企業(県外)、他機関	産婦人科学講座
次世代害虫駆除装置の開発	企業(県外)	総合人間科学講座(生物学)
乳児における斜頭症・絶壁頭の防止用具の研究開発	企業(浜松市)	臨床看護学講座
テラヘルツ波臨床応用に関する共同研究	企業(県外)	光先端医学教育研究センター フォトニクス医学研究部
インテリジェント内視鏡手術ナビゲーションシステムの実用化開発と臨床研究	企業(浜松市 他)、他機関	光先端医学教育研究センター フォトニクス医学研究部
低侵襲内視鏡および顕微鏡手術支援3D超音波診断装置の開発	企業(浜松市 他)	光先端医学教育研究センター フォトニクス医学研究部
精神的価値が成長する感性イノベーション拠点	企業(浜松市 他)、他機関	光先端医学教育研究センター フォトニクス医学研究部
新しい低侵襲微細手術を実現する直視・側視・斜視切換型高画質立体内視鏡の開発と実用性検証	企業(浜松市 他)、他機関	光先端医学教育研究センター フォトニクス医学研究部
乳癌診断のための光マンモグラフィの開発と臨床評価	企業(浜松市)	放射線科、乳腺外科
1枚のレントゲン写真を用いた股関節臼蓋被覆の3次元評価システム試作	企業(浜松市)	整形外科
石英ガラスを用いて接触観察を可能とした処置用消化管内視鏡の開発	企業(浜松市)	光学医療診療部
医療器具の保全・管理作業支援システム構築プロジェクト	企業(浜松市)	材料部
酸化オスミウム(VIII)廃液のリサイクル技術の構築	企業(浜松市)	医療廃棄物処理センター
脊椎手術用バイトブロックの実用化に関する研究開発	企業(浜松市)	医療安全管理室
電子顕微鏡技術に基づくがん診断法の開発	企業(県外)、他機関	外科学第二講座 総合人間科学講座(生物学)
PAI-1阻害に基づく造血幹細胞移植での造血機能改善薬の開発	企業(県外)	探索的臨床研究部
JST地域産学官共同研究拠点整備事業 はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	企業(浜松市 他)、他機関	光先端医学教育研究センター 産学官連携推進部
メディカルフォトニクスを基盤とする 国産医療機器創出促進基盤整備等事業	企業(浜松市 他)、他機関	光先端医学教育研究センター 産学官連携推進部

平成27年度

公開講座

平成27年度公開講座「続・健康のために知っておきたい話」が全3回(平成27年7月18日、7月25日、8月1日)にわたり開催され、毎回100名以上の受講者が熱心に聴講されました。

本公開講座は昭和54年から毎年開催しており、平成27年度で第37回目となりました。今後も地域の皆様のご期待に添えるような公開講座を開講し、大学の重要な使命の1つとして求められている地域社会への貢献に努めていきたいと考えています。



医学部附属病院

病院の理念

患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として安全で良質な医療を提供する。さらに、大学病院として高度な医療を追求しつつ優れた医療人を育成する。

基本方針

1. 患者さんの意思を尊重した安心・安全な医療の提供
2. 社会・地域医療への貢献
3. 良質な医療人の育成
4. 高度な医療の追求
5. 健全な病院運営の確立

医療機関の指定状況等

法令等の名称	許可機関名	指定等の年月日
医療法による開設許可(承認)	厚生労働省	昭和52年 3月29日
健康保健法による保険医療機関	厚生労働省	昭和52年11月15日
国民健康保険法による保険医療機関	厚生労働省	昭和52年11月15日
老人福祉法による医療機関	厚生労働省	昭和52年11月25日
母子保健法による妊娠乳児健康診断	静岡県ほか一部の地方自治体	昭和53年 2月 1日
戦傷病者特別援護法による医療機関	厚生労働省	昭和53年 4月 1日
障害者自立支援法による自立支援医療(精神通院医療)	静岡県	昭和53年 7月 1日
母子保健法による養育医療	厚生労働省	昭和53年 7月22日
労災補償法による医療機関	静岡労働基準局	昭和53年 8月 1日
原爆医療法による一般医療疾病医療機関	静岡県	昭和54年 2月 1日
トヨタトラスト沈着症に対する定期検診の指定医療機関	静岡県	昭和54年 8月 1日
臨床修練指定病院(外国人医師・外国人歯科医師)	厚生労働省	昭和63年 3月29日
消防法による救急医療(救急病院)	静岡県	平成 4年 2月12日
特定機能病院の名称承認	厚生労働省	平成 7年 3月 1日
エイズ治療の拠点病院	静岡県	平成 8年 3月19日
地域災害拠点病院	静岡県	平成 8年12月26日
結核指定医療機関	浜松市	平成10年 6月17日
地域周産母子医療センターの指定	静岡県	平成10年10月 1日
開放型病院	厚生労働省	平成17年 5月 1日
地域がん診療連携拠点病院	厚生労働省	平成19年 1月31日
難病医療拠点病院	静岡県	平成19年 4月 1日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	静岡県	平成21年 3月10日
静岡DMAT指定病院	静岡県	平成24年 3月 1日
障害者自立支援法による指定自立支援医療機関(育成医療)(更生医療)	浜松市	平成24年12月 1日
生活保護法による医療機関	浜松市	平成26年 7月 1日



医学部附属病院(病床数613床)

看護体系

区分	看護配置等	届出年月日
一般病棟	特定機能病院 入院基本料 7:1	平成21年 5月 1日
精神病棟	特定機能病院 入院基本料 13:1 看護補助加算2(50:1)	平成23年 7月 1日

先進医療承認一覧

先進医療の名称	算定開始年月日
EBウイルス感染症迅速診断	平成24年 2月 1日
神経変性疾患の遺伝子診断	平成24年 7月 1日
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定(MRD)量の測定(保健医療機関が他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託して実施するもの)	平成24年 9月 1日
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	平成25年 1月 1日
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。)	平成25年11月 1日
S-1内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	平成26年 8月 1日
オクトレオチド皮下注射療法 先天性高インスリン血症(生後二週以上十二月未満の患者に係るものであって、ジアゾキサイドの経口投与では、その治療に係る効果が認められないものに限る。)	平成27年 7月 1日
術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん(洗浄細胞診により、がん細胞の存在が認められないものに限る。)	平成27年 9月 1日
FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断 アルツハイマー病	平成28年 1月 1日
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	平成28年 3月 1日

平成28年4月1日現在

探索的臨床研究施設 TEL(053)435-2006

部長 梅村和夫

平成14年3月に医学部附属病院に併設された臨床研究専門施設として設立されました。この施設では、早期探索的臨床試験、POC試験、臨床第1相試験、医師主導治験(第1相試験)などを行っています。なお、本施設は、浜松ホトニクス株式会社の寄附により発足しました。

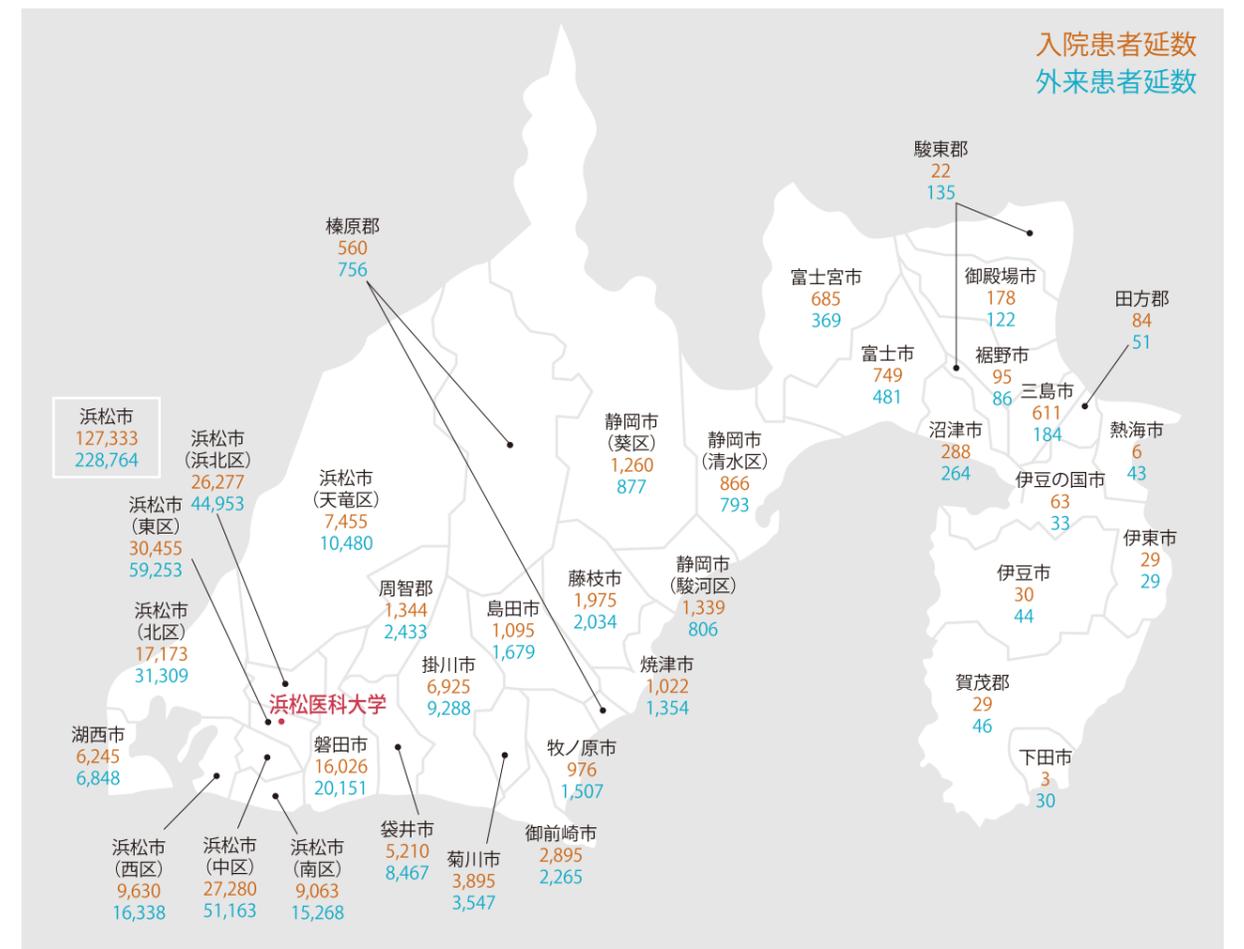


診療科別患者数

合計 / 延患者数	入院患者		外来患者		
	延数	1日平均数	延数	1日平均数	
第一内科	消化器内科	9,543	26.1	11,827	48.7
	腎臓内科	5,225	14.3	6,292	25.9
	神経内科	3,928	10.7	4,007	16.5
第二内科	内分泌代謝内科	2,801	7.7	21,766	89.6
	呼吸器内科	10,582	28.9	12,547	51.6
	肝臓内科	3,793	10.4	7,498	30.9
第三内科	循環器内科	8,117	22.2	13,229	54.4
	血液内科	10,128	27.7	7,646	31.5
	免疫・リウマチ内科	1,785	4.9	4,647	19.1
精神科神経科	13,173	36.0	19,395	79.8	
小児科	14,313	39.1	16,038	66.0	
第一外科	心臓血管外科	7,164	19.6	2,873	11.8
	呼吸器外科	3,795	10.4	1,922	7.9
	乳腺外科	956	2.6	5,518	22.7
	一般外科	2,491	6.8	1,559	6.4
第二外科	上部消化管外科	5,220	14.3	4,818	19.8
	下部消化管外科	5,058	13.8	4,209	17.3
	肝・胆・膵外科	4,944	13.5	2,391	9.8
	血管外科	3,837	10.5	4,476	18.4
脳神経外科	9,738	26.6	8,254	34.0	
整形外科	14,587	39.9	22,743	93.6	
皮膚科	3,499	9.6	20,228	83.2	
泌尿器科	10,056	27.5	14,771	60.8	
眼科	5,736	15.7	16,367	67.4	
耳鼻咽喉科	10,442	28.5	19,281	79.3	
産科婦人科	14,408	39.4	17,133	70.5	
放射線科	707	1.9	6,213	25.6	
麻酔科蘇生科	39	0.1	2,511	10.3	
歯科口腔外科	2,911	8.0	12,010	49.4	
リハビリテーション科	—	—	4,841	19.9	
形成外科	4,792	13.1	6,035	24.8	
臨床薬理内科	15	0.0	675	2.8	
小児外科	524	1.4	1,367	5.6	
救急部	1,177	3.2	3,659	15.1	
合計	195,484	534.1	308,746	1270.6	

平成27年度

静岡県内入院・外来患者延数



平成27年度

都道府県別来院状況

都道府県	入院患者延数	外来患者延数	都道府県	入院患者延数	外来患者延数	都道府県	入院患者延数	外来患者延数
北海道	8	10	石川県	35	13	岡山県	15	15
青森県	8	7	福井県	0	6	広島県	6	34
岩手県	0	7	山梨県	26	40	山口県	0	4
宮城県	18	19	長野県	123	78	徳島県	0	1
秋田県	0	8	岐阜県	522	205	香川県	12	16
山形県	15	12	静岡県	181,838	293,486	愛媛県	0	1
福島県	15	28	愛知県	9,728	12,423	高知県	0	7
茨城県	203	24	三重県	231	176	福岡県	38	69
栃木県	16	18	滋賀県	28	95	佐賀県	0	57
群馬県	0	3	京都府	79	76	長崎県	52	11
埼玉県	153	97	大阪府	137	195	熊本県	0	3
千葉県	156	101	兵庫県	84	81	大分県	0	1
東京都	1,082	781	奈良県	13	46	宮崎県	12	7
神奈川県	735	420	和歌山県	0	9	鹿児島県	0	4
新潟県	25	3	鳥取県	0	10	沖縄県	53	31
富山県	18	8	島根県	0	0	合計	195,484	308,746

平成27年度

臨床検査件数（院内検査）

検査項目	一般検査	血液学的検査	生化学的検査	病理学的検査	生理機能検査	採血・採液等
件数	105,832	359,909	2,563,585	15,215	180,158	90,037
検査項目	内分泌学的検査	免疫学的検査	微生物学的検査	内視鏡検査	その他	合計
件数	70,293	333,001	29,161	10,899	46,584	3,804,674

平成27年度

手術件数及び麻酔件数

手術件数	6,323 (うち内視鏡手術 766)				
	全身麻酔	局所麻酔	脊椎・硬膜外麻酔	その他	合計
麻酔件数	4,170	1,787	354	12	6,323

平成27年度

病理解剖件数

区分	男	女	合計
死亡患者数	180	95	275
病理解剖件数	13	8	21
剖検率(%)	7.2	8.4	7.6
受託解剖件数	4	1	5

平成27年度



手術支援ロボット「da Vinci Xi」

ロボット支援手術は、近年普及しつつある内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡）の利点をさらに向上させる可能性をもつ、次世代の医療革新の一端を担う技術分野です。



X線撮影及び透視件数

区分	X線直接撮影	X線透視	CT	MRI	合計	
患者数	入院	37,599	2,184	7,871	2,702	50,356
	外来	37,027	4,006	13,564	7,338	61,935
	合計	74,626	6,190	21,435	10,040	112,291

平成27年度

分娩件数

区分	正常出生体重児(人)	低出生体重児(人)					巨大児(人)	合計(人)
		500g未満	500g~1,000g未満	1,000g~1,500g未満	1,500g~2,000g未満	2,500g未満		
経膈分娩	502		1		7	44	4	558
吸引分娩	77					3	1	81
鉗子分娩								0
予定帝王切開	116		2	2	1	29	1	151
緊急帝王切開	34	1	5	8	19	13		80
計(総分娩件数)	729	1	8	10	27	89	6	870
死産(内数)			1					1

平成27年度

薬剤件数

院内外来処方箋	調剤薬		注射薬	
	院外処方箋	入院処方箋	外来注射箋	入院注射箋
3,919	159,295	134,298	54,082	161,311

平成27年度

救急患者数

疾病	来院原因別				小計	妊娠	合計
	傷病			事故			
	交通	中毒	その他				
5,998	467	115	1,235	1,817	743	8,558	

平成27年度



シミュレーションセンター



ドクターヘリを利用した医療活動

外部資金受入れ状況

科学研究費補助金		
研究種目	件数	交付額(単位:千円)
新学術領域研究	7	96,460 (22,260)
基盤研究(A)	1	15,600 (3,600)
基盤研究(B)	25	126,490 (29,190)
基盤研究(C)	112	166,660 (38,460)
挑戦的萌芽研究	33	48,230 (11,130)
若手研究(S)	0	0 (0)
若手研究(A)	1	3,900 (900)
若手研究(B)	49	72,540 (16,740)
研究活動スタート支援	3	4,420 (1,020)
特別研究員奨励費	1	1,100 (330)
奨励研究	11	6,600 (0)
合計	243	542,000 (123,630)

()は間接経費を内数で示す 平成27年度
年度中の研究者の異動及び経費の繰越承認に伴う増減は含まない

厚生労働科学研究費補助金	
件数	金額(単位:千円)
4	30,392 (7,013)

()は間接経費を内数で示す 平成27年度
年度中の研究者の異動及び経費の繰越承認に伴う増減は含まない

奨学寄附金		
区分	件数	金額(単位:千円)
一般	482	442,740
助成金	27	59,087
合計	509	501,827

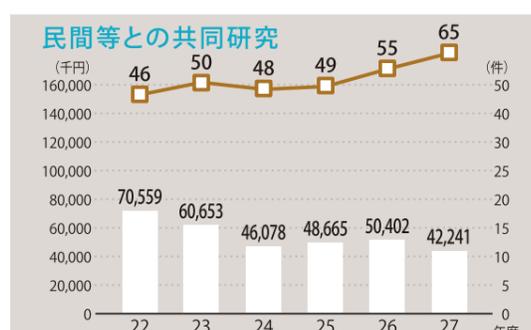
平成27年度

受託研究		
区分	件数	金額(単位:千円)
一般	80	392,443
治験	258	106,667
病理組織検査	6,735	41,875
合計	7,073	540,985

平成27年度

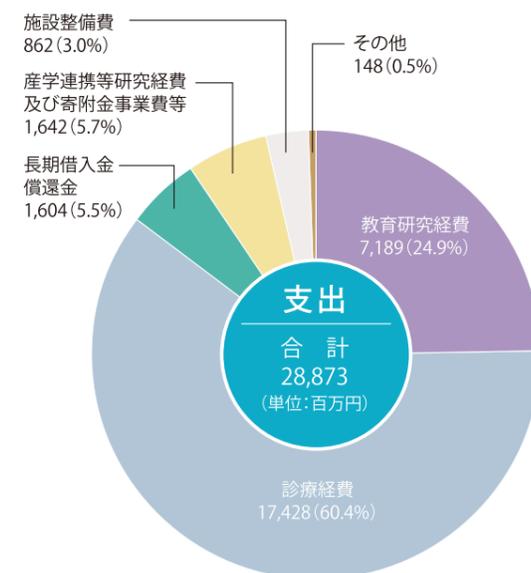
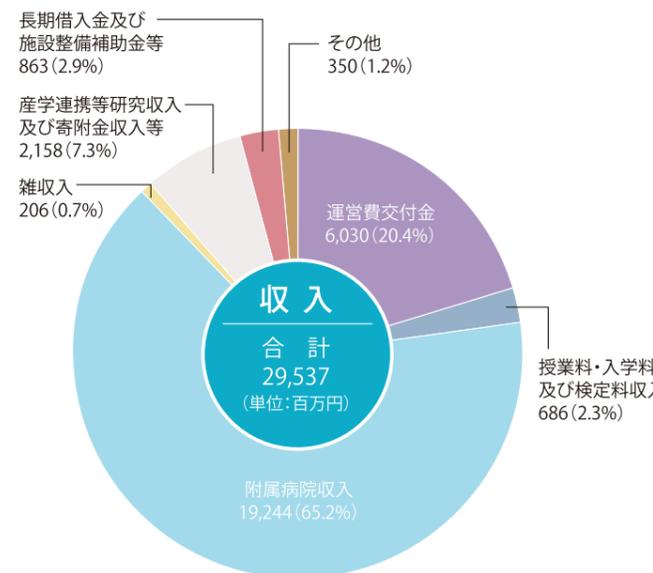
民間等との共同研究	
件数	金額(単位:千円)
65	42,241

共同研究員費を含む 平成27年度



財務、土地及び建物

平成27年度決算額



土地及び建物

区分	土地 (㎡)	建物 (㎡)		備考
		建面積	延面積	
本部		10,060	22,560	管理棟、職員会館、福利施設棟、体育館、課外活動施設棟、エネルギーセンター、武道館、附属図書館、国際交流会館、弓道場、保育所、立体駐車場(職員用)、その他
医学部		7,955	38,054	講義実習棟、基礎臨床研究棟、基礎臨床研究棟別館、臨床講義棟、RI動物実験施設、看護学科棟、フoton研究棟、その他
附属病院	265,206	16,316	76,250	附属病院、MRI-CT装置棟、中央診療棟、PET-CT棟、立体駐車場(患者用)、サイクロトロン棟、その他
看護師宿舎		1,419	5,526	医大舟岡山宿舎 2棟 129戸 〔構造RC-規格a 94戸〕 〔構造RC-規格b 35戸〕
職員宿舎(二)		897	3,313	医大半田山宿舎 3棟 60戸 〔構造RC-規格c 10戸〕 〔構造RC-規格b 50戸〕
職員宿舎(一)	35,408	3,845	13,753	医大宿舎 11棟 198戸 〔構造RC-規格c 188戸〕 〔構造RC-規格b 10戸〕
佐鳴台宿舎(一)		365	106	学長宿舎 1棟 1戸(構造W-規格e)
佐鳴台宿舎(二)		707	207	副学長宿舎 1棟 1戸(構造W-規格e)
三ヶ日艇庫		502	114	副学長宿舎・事務局長宿舎 2棟 2戸(構造W-規格e)
合計	302,188	40,919	159,883	

平成28年5月1日現在

配置図



施設名称

① 管理棟(事務局)	⑮ 体育館
② 附属病院	⑯ 武道館
③ 臨床講義棟	⑰ 弓道場
④ 探索的臨床研究施設	⑱ プール
⑤ PET-CT棟	⑲ テニスコート
⑥ 看護学科棟	⑳ サッカー・ラグビーグラウンド
⑦ 基礎臨床研究棟別館	㉑ 野球場
⑧ 基礎臨床研究棟	㉒ 医療廃棄物処理センター
⑨ RI動物実験施設	㉓ 国際交流会館
⑩ 講義実習棟	㉔ 医大宿舍
⑪ 福利施設棟	㉕ 慰霊塔
⑫ 附属図書館	㉖ 医大舟岡山宿舍
⑬ フォトン研究棟	㉗ 医大半田山宿舍
⑭ サイクロトン棟	㉘ 半田山会館

関連教育病院

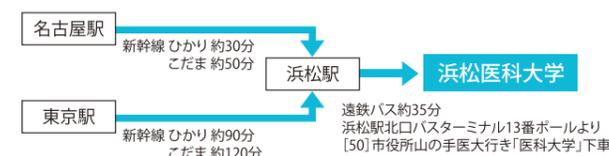
▶▶ 浜松医療センター

〒432-8580 浜松市中区富塚町328番地
病床数/606床(一般600、感染症6)

案内図



交通 [新幹線・バス]



※ひかりは一部のみ浜松駅停車

自動車





国立大学法人
浜松医科大学

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
TEL.053-435-2111 (代)
<http://www.hama-med.ac.jp/>



UNIVERSITY
ACCREDITED
March 2015

学校教育法第109条第2項の規定に基づき、
平成26年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構による
「大学機関別認証評価」を受審し、
「大学評価基準を満たしている」と認定されました。

